

7月号

第437号

いっしん

令和3年(2021年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

まめなるを
神の御幸と
知る人は
願うにまして
礼びもうさな

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神教

教祖様138年 教団独立121年 小倉教会布教136年 甘木親教会布教117年
安武松太郎大人70年 加治木教会布教70年



加治木教会 天地金乃神御太祭 並びに
布教七十年記念大祭
をお仕えして
五月三十日(日)

記念祭をお仕えさせていただく五月になると、九州の各県が「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の対象となり、一日の感染者数は各県とも最高を記録するようになりました。

そのような時期にお迎えするので、から、感染拡大防止の対応を準備し、自粛・縮小という形となりました。

前もつての、奉迎信行期間や、打ち合わせをする奉迎委員会、奉迎のための御用奉仕なども、自粛・縮小せざるを得ませんでした。

しかし、十年前の記念祭には、早朝に台風が加治木町を通過する予報で、その早暁へそろそろ玄關前の記念祭用の仮設看板が飛びなぐ」と思い、まさに茫然自失の心境でした。

結果的には、台風は東にそれ、看板も飛ばずに無事記念祭が仕えられました。

記念祭前に、甘木親教会の信者さん方がマイクロバスから降りられると「親先生が行かれるのですから台風は来ない」と思ってお参りしました」との言葉に、神様にお任せし信じ切る心が足りなかった自分に気付かされました。

このたびの記念祭は「親先生、金光様！」とお任せする、十年前の心境から少しだけ成長させていただいていかも知れません。
(教会長)

加治木教会
天地金乃神御大祭 並びに

布教七十年記念大祭

ご教話(要旨)

甘木親教会会長

安武道義 親先生



「疑いを放れて広き真の大道を開き見よ。わが身は神徳の中に生かされてあり。」

「神はわが本体の親ぞ。信心は親に孝行するも同じこと。」

おめでとございます。

ただ今は、加治木教会、天地金乃神様の御大祭、併せまして、布教七十年の記念祭をおかげを蒙らせてい

ただきまして、ほんとに有り難いことと思います。

昭和二十六年六月に、矢野政美先生がこの加治木の地に布教されましたが、その前に平島という先生が大正十四年に布教されておりまして、そこから数えるなら布教百年に近いと思います。

なかなか道が立たずに、平島只助という先生が布教を断念され、そのあとだれも御用されることがなかったところを、昭和二十六年に矢野先生が来られて今年で七十年、ずっと一日も休むことなくこの加治木の地で御用が進められてあるということは、ほんとに有り難いことであると思います。

祭詞の中にもありましたように、矢野政美先生が布教されて、なかなか道が立たずに、布教を断念されて進退を伺いに、甘木に帰られたところが、お母さんである矢野クラ刀自身が「加治木の土になる覚悟」ということで「加治木で鳴らん太鼓はどこに行っても鳴らん」と、親としてみれば「そんな、それは苦しかろう、帰っておいで」というのが親心かも

知れませんが、矢野クラさんは大変厳しい言葉を言っておられます。

▼ようやく教話を

先週の日曜日には、新田原教会で布教五十五年の記念祭をおかげ頂きましたが、久し振りに教衣でお話をさせて頂きました。

去年から、コロナウイルスが流行し始めまして、ずっと記念祭が延期になるか仕えられるところは祭典の中で「あいさつをお願いします」ということで、祭典後の教話はほとんどありませんでした。

また、今日は「教話を」ということです。しばらくおかげを頂きたいと思えます。

コロナウイルスが流行し始めまして、会合とか人が集まるといことができず、なかなか信心の共励をする場がありません。

特に福岡県はひどく「緊急事態宣言」が三回目、よその県では「福岡の車が来たら大変だ」と言われるくらいですが、そういう中に今日は、記念祭をおかげ頂きました。

▼初代の毎日の願い

なんとか、このお道の信心というものを伝えて行かねばならないわけですが、昭和二十六年といいますが、その年の二月四日は、甘木教会の初代がお国替えしております。



その年の六月にこの加治木に布教に出られ、二代の親先生、私の父はまだ二十七・八才で、そういう時でびっくりします。

そういう時の、昭和二十四年の春に、甘木の近くの原鶴温泉に「小野屋」という旅館があり、宮川という方が営んでおられます。

その「小野屋」は、明治十四年頃にはお湯が出ていたという記録があり、教祖様がまだご存命の頃からです。

宮川さんの所は、このお道の信心はなかったそうですが、お道にご縁を頂かれてから間もなく家族の方が亡くなられ、その時初めて金光教式でお葬式をしたそうです。

昭和二十三年に亡くなられ、二十四年に一年祭が仕えられ、その一年祭に初代がお祭りに行っています。

霊祭が始まる時に、装束に着替えますが、そのお手伝いに、近くの宮川さんと仲良くしておられたご婦人の信者さんに頼まれ、そのご婦人の方が御用をされておられた時に、初代が「私が毎日何をお願いしておるか分かるな？」と尋ねられたという

ことです。



初代が七十八才くらいで、もう晩年でありましたが、その方に、初代は「私は毎日信心が進むようにお願いをしており」と言われたということです。

このご婦人の方は、その後東京の方にいかれまして毎月手紙でお届けがあっておりまして、その中に必ず、初代の親先生からこういうみ教えを

頂きました、ああいうみ教えを頂き
ましたと書いておられ、本人が書いて
おられましたので間違いありません。



甘木親教会 安武幸子親奥様
玉串奉奠

私たちには、信心が進まないとい
われないことがたくさんあるように
思います。

甘木教会の初代は「毎日信心が進
むようにお願いをしておる」という
ことですが、もう晩年でありますか
ら、信心は進まなくてもよいでしょ
うが「毎日信心が進むよう」と願っ
ていたということなんです。

教祖様は「一生が修行中」と仰せ
られておられます。ゴールはないの
です。

おかげを頂いておるといことが
わかり難くても、だんだん信心を進
めさせていただき、いろんなみ教え
を頂いて行きますとへあー、こうい
うおかげを頂いているのだ」とわか
るように、信心が進まないと気が付
かないことがたくさんあります。

▼信心が進めば取り違い聞き違
いがないように

話は戻りますが、矢野政美先生
のお母様の矢野クラ刀自が、三十三才
の時に腎臓病で命がないと言われた
時に、神様には家からお礼はできる
けれども、親先生には一目会わなけ
ればお礼を申すことができないと、
尿毒症で腫れた体をリヤカーか何か
に乗って両脇を支えられて、二日町
のお広前にお参りされお別れを申し
に来られています。

へもう自分は命がない」という思
いのクラさんに対して、初代は「あ
んたは信心の帆を下げたな」と、大
変厳しい内容の言葉であったという
ことです。

そういう厳しい言葉でしたがへ矢

野クラさんならば、どんなことを言
うても聞き違い思い違いをしな
いから」ということと言われたとい
うことです。
厳しい言葉を言って聞き違い思い
違いをするようでは、腹を立てて「も
う信心はやめた」ということにもな
ります。



甘木親教会 参拝教師・参拝者



参拝教師



信徒会



信徒総代

私も御結界で御用させていただいておりますから、いろんな方がお参りされお届けがあります、やはり「この人にはここまで」「あの人にはここまで」と、いろいろと思います。先日、あるご婦人の方がお参りされ、ご主人が癌で治療を何年かされてあり「近くの病院に入院していましたが、こんど改めて久留米の大きな病院に移ります」というお届けがありました。

「なんとか助かりたい」という思いでお参りをされるわけですが、そのご婦人の方に、どのようにお話をさせていただければよいのか。

甘木教会の初代は、このお道の信心ということについて「お礼六分、お詫び三分、お願い一分」というふうに教えています。

「お願いは一部」というように、今日まで命を頂いておるお礼を申すことをこちらがお話しさせていただいても、相手が「助かりたい」とか病氣のことしか頭にないと、お礼ということに思いが行かれないのではないかと思いました。

中には、そうじゃない人もあり、

しっかりとお礼申してお願いをされるという方もありますが、信心が進んでいなければ、どうにもならないところかと思えます。

信心が進めば、どんなことを言われても取り違い聞き違いがないわけで、そうならせてもらわねばなりません。



奉迎委員長あいさつ



▼「有り難い」にも違いが

私は若い時にあまり「有り難い」ということを感じたことはありませんでしたが、年を重ねて行きますと「有り難いな」と思うようにならせていただきます。信心が進んだということではなく「年のせいかな」とも思いません。

「有り難い」というのも、願いがかなえば、宝くじが当たるようにと願って買って当たれば、ほんとに有り難いですね。

しかし「有り難い」と言ってもいろいろあります。甘木教会の初代の「有り難い」ということにもいろいろある」というお話があります。

前の親先生が例えてお話ししてあるのですが、子供さんが病氣になって親がお参りさせていただき子供の病氣が治って、教会と御本部にお参りをされたのですが、そのあとお参りがありませんので、どなたかがお導きに行かれたところ、その奥さんが「御本部までお参りしておりますから」と言われ、お礼はもう済みましたというように言われたそう

です。お礼は終わったと。

その方は、おかげが有り難い、願い通りになって有り難いということでしょうが、信心がだんだん進みますと、願ったことが成就して有り難いということから、そういうおかげを下さる天地の親神様が有り難いということになって行くと思います。

このお道のへ有り難いくというのは、願い通りになって有り難いのはだれでもでしょうが、願い通りにならなくても有り難いということですが、自分は右と書いても、神様は左とされるようなことでしょうか。

左となったらへおかげがないということではなく、このお道の信心はそうではないと思います。

この天地の働きに、私たちは生かされ生きておるわけで、この大きな天地の中で命を頂いて生かされて生きておるといことがへ有り難いということと、この天地からわれわれ人間を見てみると、ちっぽけな私たちがだと思えます。もっと大きな心にならせてもらわねばならないと思えます。

教祖様は、ほんとに大きな心でも

のこを見られ、われわれは、ほんとに小さな心で見えています。

教祖様は「人は十年は長いように思うけれども、神様にとっては、あちらを向いてこちらを向く時間ほどもないからなあ」と仰せられ、また「大阪は広うございます」と言った方に対して「けし粒よりは少し小さかるう」と仰せられています。

そういうものの見方というものが、われわれはほんとに小さいように思います。

このお道の信心というものがわかるというのは、ほんとに信心が進まなければ、思い違い、考え違い、取り違いをして、相すまないことになったりするように思います。

▼布教七十年、これから

七十年間このお道が今日まで続かせていただいたということは、ほんとに有り難いことであります。

また、これからいっそう、お道を知らない方がたくさんおられます。

また、今日いろんな問題をかかえ悩んである方がたくさんおられますの



青年会



婦人会



少年少女会(リーダー)



若婦人会

で、そういう方々にお道を伝えて、助かって行かれる道を伝えさせてもらわねばならないと思えます。われわれが命を頂いているのは、どうして命があるのか、どうして人間として生まれておるのか、地球上にはいろんな命がありますが、われわれは人間としての命を頂いております。

犬とか猫も、植物も命があり、皆命があります。われわれは人間としての命がありますが、その命をどう使わせてもらうか、大事なことだと思います。

ひとつ、われわれ一人一人が、このお道のご被礼を願わせてもらって、たくさんの方が助かって行くようになって行かねばならないと思います。

今日は布教七十年ですが、これからまた五年十年と、このお道のご被礼を願わせてもらわねばならないと思います。これで終わらせていただきたいと思います。

「疑いを放れて広き真の大道を開き見よ。わが身は神徳の中に生かされてあり。」

「神はわが本体の親ぞ。信心は親に孝行するも同じこと。」

有り難うございました。

(おわり)

加治木教会

布教七十年記念大祭

に向けての御用

【五月二十五日】

四月十一日(日)に下地ともいうべき錆止めをぬらしていただき、五月二十五日(火)ようやく玄関前の鉄骨のペンキ塗りを終えさせていただきました。二階の掃除もありました。



- 19(水) 清掃御用 10時
- 20(木) ●月例祭・共励会 13時半
- 21(金) 新田原教会へ出発 [22日早朝の祭]
- 22(土) } 花巻 大仏 (ご祈願)
- 23(日) } 新田原教会布教55年記念大祭
- 24(月)
- 25(火) 親先生お部屋掃除・準備

【五月二十六日】

この日は、記念品の、手作りマスクのラッピングや袋詰め御用が進められました。



【五月二十八日】

記念祭二日前、活け花がきれいに活けられました。記念品が袋詰めされ、数も確認されました。



【五月二十九日】

記念祭前日、準備がひと通り終わったところで、男性のみなさんで、やりのこしていましたが玄関上の鉄策の錆びて朽ちていた部分をグラインダーで切断し撤去しました。



令和二年七月豪雨 復興支援活動

について

【五月十一日～十四日】

人吉教会において、甘木親教会から教師・信徒の皆さんはじめ、周辺教会から毎日数人の奉仕者が駆けつけ、ご神前はじめ傷みの激しい部分の修繕やクロスを貼る前のパテ塗りなどの支援活動奉仕作業がありました。

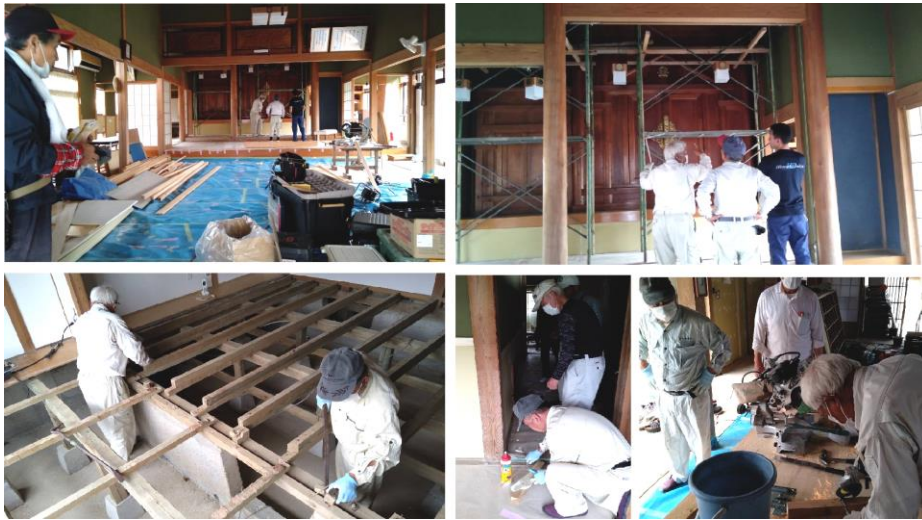
木山教会在籍の、宮大工でもある中山さん（お嬢さんは山西教会長夫人）の的確な指導のもとに床張りなどの作業が進められました。

加治木教会からも教会長が三日間御用におかげ蒙らせていただきました。

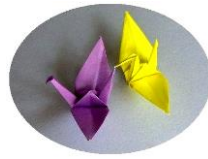
人吉教会のお広前のようすが、少しずつ調えられてきました。来年の春には、お広前で御大祭が仕えられることが期待されます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、甘木親教会から毎月数日間、御用奉仕に来ておられた先生方はじめ信者さん方が「加治木教会の記念

祭にぜひお参りさせていただきたい」とのことです、人吉教会で一緒に汗を流した奉仕者の皆さんが特別にご参拝下さり有り難いことでした。



少年少女全国大会に向け7月末まで まごころ運動



▼換金後、海外の売れない子ともちへ送られます。

に取り組みましょう。
平和の折りづる
※古切手・古カード
えんぴつ(新)
を集めます。

使用済み切手収集についてのお願い

※切手ははがさないで、以下の要領で切り取ってください。
※切手の周囲を5mm程度あけて切り取ってください。
※枚数を明記してお届けください。
※外国切手や台紙からはがした切手がある場合は別にしてお届けください。



あしあと

加治木教会行事記録

- 1 (火) 報徳月例祭 10時半
- 3 (木) 親教会記念祭御礼参拝
- 9 (水) 清掃御用 10時
- 10 (木) 月例祭 生神金光 大神様 10時半
併せて 布教記念祭
- 13 (日) 御本部教団独立記念祭 遥拝 10時
- 14 (月) 人吉教会復興支援作業
- 15 (火) //
- 21 (月) 清掃御用 10時
- 22 (火) 月例祭・共励会 13時半
- 29 (水) 市来家霊祭
- 30 (火) 清掃御用 10時
- 30 (水) 上半期感謝祭 10時半

七月のご霊神様のおまじない

- 川畑祐義 之霊神(7日)平成17年
 - 中野 繁 之霊神(9日)昭和54年
 - 大山ちあき之霊神(12日)平成13年
 - 村上淑子 之霊神(13日)昭和52年
 - 福山悦子 之霊神(13日)平成2年
 - 津上甚次郎之霊神(18日)昭和31年
 - 徳永フチエ之霊神(18日)平成29年
 - 金竹重利 之霊神(19日)昭和60年
 - 山本豊子 之霊神(19日)昭和3年
 - 上田スギ 之霊神(19日)平成21年
 - 福元三次郎 之霊神(20日)昭和33年
 - 須藤禮子 之霊神(22日)平成18年
 - 庄村袈裟助 之霊神(23日)昭和20年
 - 平地政男 之霊神(25日)昭和21年
 - 前田ツネ 之霊神(27日)昭和60年
- 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

